

がん医療
推進委員会
だより

「あなたの働きたい」を応援します

人はなぜ働くのか。収入を得て生活することはもちろんですが、そこに生きがいを感じたり、時には仕事を人生そのもののように感じたりすることもあります。

ある調査(桜井班2007年)では、がんになっても今の仕事を続けたいと思う患者さんは全体の75%で、仕事を辞めたいと思う患者さんの3倍以上でした。しかし仕事継続を希望した患者さんのうち31%の患者さんは診断後に仕事が変わり、解雇された人や依願退職・廃業した人も15%いたことが明らかになりました。

紹介したデータは少し古いものですが、がんになっても家族を養わなければならないし、治療にもお金がかかることは今も変わりません。仕事に生きがいを感じていた人にとっては、仕事を失うことは大きな精神的喪失につながります。一方企業としても、新しい職員を入れてもその患者さんと同等の技術や知識を持つまでに時間と労力がかかるため、できればその患者さんを失いたくないと考えている事実があります。

また治療を受けながら新しい仕事を探す場合は、自分の治療の状況を伝え、自分が求める仕事の条件と症状への理解を得る必要があります。先方の要望と合わせるの

はなかなか大変です。そこで、このたびがん患者サポートチームの取り組みとして、治療と仕事の両立支援および就職支援を行う就労支援窓口を病院内に開設する運びとなりました。3月24日に沖縄県産業保健支援センター(あおき)青木一雄所長、ハローワーク那覇知念宏和所長と病院院長福本泰三とで三者協定を結び(写真)、4月20日から窓口業務が始まっています(三者で同時に協定を結ぶのは今回が沖縄県で初めてだったそうです)。

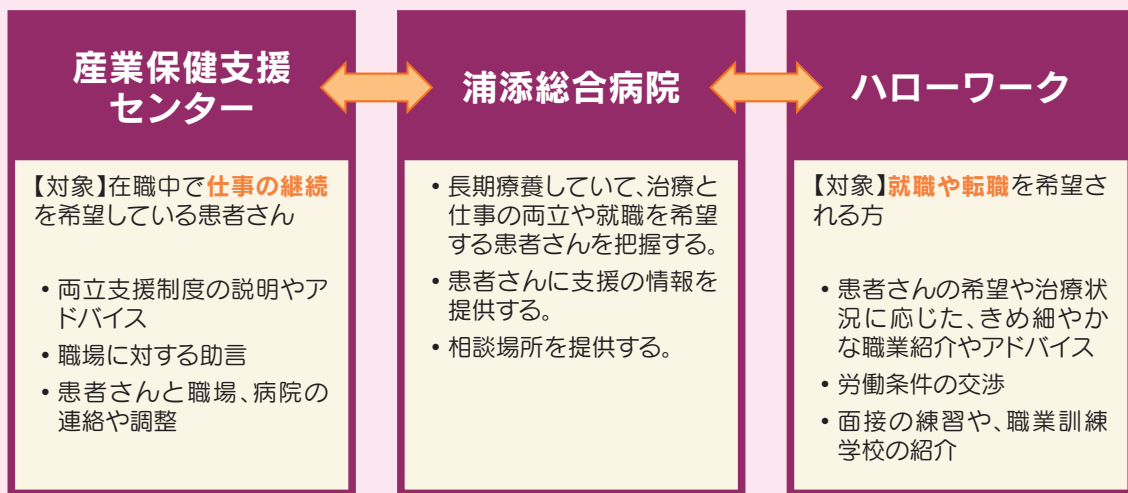
この就労支援窓口は、当病院1階の医療相談・医療連携支援室(まへ)に、月に一度定期的に開設されます。両立支援担当者(まへ)と就職支援担当者(まへ)が来院していただき、患者さんの状況を聞いて、患者さんと企業・病院の間の橋渡しや就職先のあっせんをしていただきます。詳しい連携内容は(図)をご覧ください。病気の状況によっては考えなければならぬことがたくさんありすぎて、考えがまとまらなくなることもあるかもしれません。優先順位は一緒に考えましょう。場合によっては仕事は一旦保留して、あとで考えて対応するという方法もあります。

そしてありがたいことに、この就労支援窓口をご利用できる患者さんはがんだけでなく、脳卒中や糖尿病、肝炎、難病などにより長期に通院治療が必要となる病気であれば対象となります。

治療が大変で仕事を辞めようか悩んでいる方、すぐには辞めないうでください。まず私たち(医師、看護師、かけはしのスタッフなど)に声をかけて、相談窓口に行ってみましょう。

三者協定(図)

産業保健支援センターとハローワークの対象となる患者さんと、それぞれの役割と連携を表しています。



この就労支援窓口は、当病院1階の医療相談・医療連携支援室(まへ)に、月に一度定期的に開設されます。両立支援担当者(まへ)と就職支援担当者(まへ)が来院していただき、患者さんの状況を聞いて、患者さんと企業・病院の間の橋渡しや就職先のあっせんをしていただきます。詳しい連携内容は(図)をご覧ください。病気の状況によっては考えなければならぬことがたくさんありすぎて、考えがまとまらなくなることもあるかもしれません。優先順位は一緒に考えましょう。場合によっては仕事は一旦保留して、あとで考えて対応するという方法もあります。

乳腺外科副部長 宮里 恵子

就労支援窓口は毎月第3火曜日、13時から16時です。その時間帯に空きがあれば当日でも相談できます。また都合が合わない場合は随時相談も可能です。